



ひろしま避難者の会「アスチカ」設立の経緯

ひろしま避難者の会「アスチカ」

代表 三浦 綾

Tel 070-5677-0411

E-mail hiroshima.hinan@gmail.com

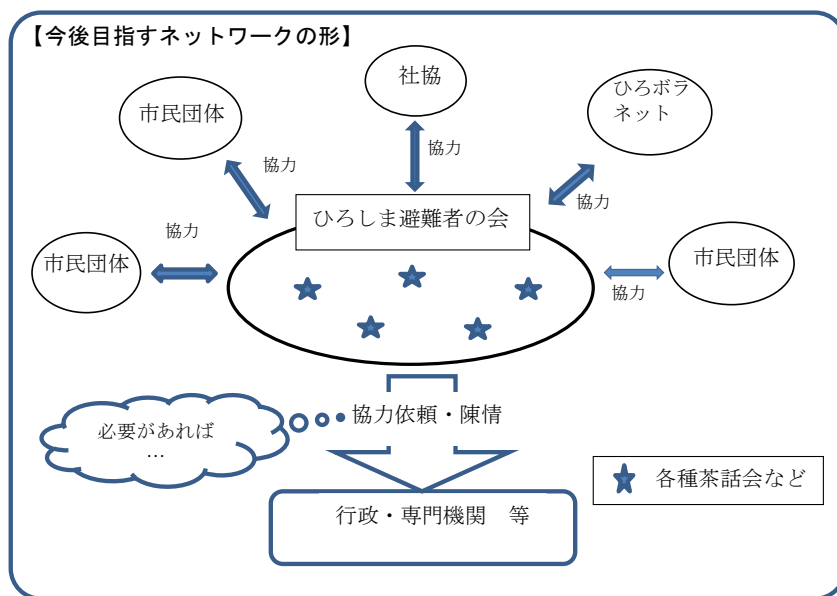
私共は、平成23年3月11日に起こった東日本大震災後に広島県内へ避難した者で構成する、ひろしま避難者の会「アスチカ」と申します。私共はこれまで、避難者相互の交流とネットワーク作りのために、本年3月より毎月1回交流カフェ（避難者交流会）を開催してきましたが、10月13日に広島市社会福祉センターにて正式に上記の「避難者の会」を設立いたしました。

以下に、この会の設立趣旨・活動内容と設立に至るまでの経緯についてご説明いたします。

【ひろしま避難者の会「アスチカ」とは？】

「アスチカ」とは、「明日へすすむ力」という意味を込めて名付けました。広島に避難した当事者が運営し、避難者による避難者のための会です。

ここ広島で生活の基盤や気持ちを整え、同じ思いの仲間を見つけながら避難生活を落ち着かせ、避難者が次のステップへ踏み出す力を蓄えてもらう会です。まずは当事者同士で経験や悩みを共有します。そして、広島の方々にご協力をいただきながら、震災によって一変した生活を立て直し、出来る限り震災前の自分を取り戻して、前向きに日々の生活と向き合えるようになりたいと考えています。



【設立趣旨】

東日本大震災・津波・東京電力福島第一原発事故による体験は、被災者の心の中に深く刻まれており、不測の事態によって一変した生活の悩みや不安はさまざまです。広島へ避難した経緯や家庭の環境も違います。震災後1年半以上経ちますが、避難者の生活が物理的にも精神的にも落ち着いたとは言えません。今年に入ってから、新たに広島へ避難して来た方も少なくない現状を踏まえ、震災直後から避難している者を中心に、避難者同士が交流し悩みを打ち明け、心の拠り所となるホッとできる場「交流カフェ」を作りました。

しかし、それだけでは避難者の悩みを解決しきれないことがわかり、ひろしま避難者の会「アスチカ」を設立しました。広島県内外に点在する各支援団体及び行政や企業とも有機的に繋がり、ご協力をいただきながら、震災によって一変した生活を立て直し、出来るだけ震災前の自分を取り戻して、前向きに日々の生活と向き合えるようになることを願っています。

【活動内容】

1. 「交流カフェ」の開催
毎月1回、「アスチカ」の会員同士が顔を合わせてお話しする機会を設けています。
2. 各種勉強会・相談会の開催
「アスチカ」会員の中から寄せられる声などに合わせ、勉強会や相談会を企画しています。
3. 連携団体への支援依頼と避難者の支援活動
4. 連携団体とのミーティング（支援団体及び行政・企業との連携促進）
5. 被災地（避難元）情報も自由に取得できるように、被災地との連携を図ります。

【これまでの経緯】

2011年

3月	11日	東日本大震災、東京電力福島第一原発事故の発生。 大震災の混乱から、広島の被曝医療への期待や広島に身内がいる等、さまざまな理由で広島を避難先として選びそれぞれ避難してきた。当初2か月間は避難者同士の交流はないまま過ぎる。
5月	7日	広島市被災者支援ボランティア本部・広島市社会福祉協議会主催 第1回被災者交流会（12世帯27名参加）
6月	4日	第2回被災者交流会（28世帯69名参加）
7月	9日	第3回被災者交流会（30世帯84名参加）
9月	11日	第4回被災者交流会（17世帯41名参加） 東日本支援・交流会新聞（創刊号）発行
11月	3日	第5回被災者交流会・芋煮会（12世帯39名参加）支援者70名参加 これまでの交流会で関わった皆さんと東北の芋煮で御礼交流会（交流会終了）
12月	1日	東日本支援・交流会新聞（第2号）発行

震災から私たちに寄り添い開催していただいていた交流会も、第5回をもって広島市被災者支援ボランティア本部・広島市社会福祉協議会主催としては終了されました。ちょうど、私たち避難者自身が主体的に小さな集まりを始めていた時期でもあり、私たち自身がもっと多くの避難者とつながりたいと考えていました。そこで、災害支援のボランティアの方々（ひろボラネット）との相談を経て、震災直後から広島に避難している者を中心に、イベント型の交流会から、避難者の生活と心の復興を目的とした「交流カフェ」の開催や、避難者の方々に「避難者ネットワーク」への登録のお願いを決めました。

2012年

1月		避難者主催の、安心してホッとできる交流の場「交流カフェ」準備開始
2月		毎月第1土曜日の「交流カフェ」定期開催と避難者ネットワーク作り(居場所確認と状況調べ)を掲げ、広島市社会福祉協議会を通じてアンケートと交流会の案内を避難者へ送付
3月	3日	第1回交流カフェ開催(13世帯26名参加)
	10日	交流カフェ新聞(Vol.1)発行
4月	7日	第2回交流カフェ開催(12世帯19名参加)
	15日	交流カフェ新聞(Vol.2)発行
5月	5日	第3回交流カフェ開催(15世帯26名参加)
	10日	交流カフェ新聞(Vol.3)発行
6月	2日	第4回交流カフェ開催(11世帯12名参加)
	9日	交流カフェ新聞(Vol.4)発行
7月	7日	第5回交流カフェ開催(20世帯39名参加)
	15日	交流カフェ新聞(Vol.5)発行
8月	4日	第6回交流カフェ開催(13世帯23名参加)
	10日	交流カフェ新聞(Vol.6)発行
9月	1日	第7回交流カフェ開催(13世帯21名参加)
	7日	交流カフェ新聞(Vol.7)発行
10月	13日	ひろしま避難者の会「アスチカ」設立総会
		第8回交流カフェ開催(31世帯54名参加)

現在、ひろしま避難者の会「アスチカ」には、89世帯224名が登録しています。

【ご支援いただける皆さまへのお願い】

避難してきた者は、広島の方々の温かさに支えられながら前向きに避難生活を送ろうと日々過ごしております。しかし、震災から時間ばかり過ぎる中、地元の復興を願いつつも、避難元と避難先の狭間での不安定な生活にさまざまな悩みや不安を抱えているのも現状です。

当事者として、このような避難者の悩みや不安を解決するために、ひろしま避難者の会「アスチカ」を立ち上げました。広島県内外に点在する各支援団体および行政や企業とも有機的につながり、避難者自身が自立し、将来の展望をつかんでいくことを目指しています。

今後は、これまでに避難者から寄せられた生活についての不安や悩みを基に、行政・支援団体の皆さまに避難者の現状をお伝えし、本当に必要な連携のお願いをさせていただきたいと考えています。どうか、ご支援いただければ大変ありがたく存じます。

ご支援いただける皆さまには、私たちの震災体験をお伝えし、知っていただくことで相互の交流が今後の災害対策や地域力の向上へと結実することを願っております。

私共の活動・運営は、趣旨に賛同していただける皆さまからのご支援・ご協力を必要としています。何卒、ひろしま避難者の会「アスチカ」への一層のご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

そして、一日も早く個々の避難事情を解決し、皆さまと一緒に過ごせますように最善を尽くす次第です。

- 【参考資料】
- ・ひろしま避難者の会「アスチカ」会員の避難元一覧
 - ・これまでに寄せられた声〈抜粋〉

【連絡先等】

〒730-0052

広島市中区千田町1丁目9番43号

広島市社会福祉センター

ボランティア情報センター気付

ひろしま避難者の会「アスチカ」

Tel 070-5677-0411

Fax 082-822-0005

Eメール：hiroshima.hinan@gmail.com

URL <http://hiroshimahinanshanokai-asuchika.com/>



ご寄附はこちらでお受けしております。
よろしくお願いいたします。

ゆうちょ銀行

[記号] 15150 [番号] 480341

[名義] ひろしま避難者の会 アスチカ

・他行から振込する場合

[店名] 五一八(読み ゴイチハチ)[店番] 518

[預金種目] 普通預金 [口座番号] 0048034

ひろしま避難者の会「アスチカ」会員の避難元一覧

(2012. 9. 17 現在)

- ・ 岩手県
- ・ 宮城県
- ・ 福島県
 - 〈浜通り〉 南相馬市・飯館村・大熊町・双葉町・浪江町・いわき市
 - 〈中通り〉 伊達市・福島市・二本松市・本宮市・郡山市・田村市・三春町
小野町・西白河郡・棚倉町・西郷村・白河市
 - 〈会津地方〉 西会津町・南会津町
- ・ 栃木県
- ・ 茨城県
- ・ 千葉県
- ・ 埼玉県
- ・ 東京都
- ・ 神奈川県

これまでに寄せられた声〈抜粋〉

避難してきた者は、広島の方々の温かさに支えられながら前向きに避難生活を送ろうと日々過ごしております。しかし、震災後1年半以上たった今も心の奥にはさまざまな悩みや不安を抱えながら生活しています。この会へ寄せられた避難者の声を一部ご紹介いたします。

- ・ まだまだ震災の怖さから抜け出せそうにないので、このような会に参加し少しでも不安を和らげる事が出来たらと思います。
- ・ 幼稚園で地震避難訓練があるが参加してもよいものか。3.11を子どもが思い出さないか心配。
- ・ 今後広島で災害にあった時、身寄りもないので不安。
- ・ 子育てと私の気持ちの余裕のなさ、周囲との原発事故に対する温度差に不安を感じます。初めての育児は予想以上に大変で全く思うようにはいかず、人間関係も一からのスタートで疲れます。
- ・ 家族が離れ離れな状態の中、子どもの情緒が最近不安定だと感じ、ストレスを感じています。
- ・ 広島的生活をいつまで続けるのか、決められないです。

- ・ こちらの生活に馴染んでしまったので、また引越しするとなるとパワーがいらいます。
- ・ 子どもの学習面や環境のギャップ等によるストレス、頼れる人のない不安など。
- ・ 実家だが収入がなく大してお金を入れられないので肩身が狭い。
- ・ 生活のために仕事をはじめ、生活は軌道に乗っても心が 3.11 から前へ進めていません。
- ・ 福島にいつ戻れるのか？ 除染すれば元の生活ができるのか？ 小さい子どもへの影響がどの位なものなのか？
- ・ 福島へ帰りたいが放射能がこわくて帰れない。未だに（福島の）原発が終息していないのに、他の県の原発を動かそうとしています。日本にいる限り、放射能を浴びるのは免れないという不安。
- ・ 少しずつ広島に生活に慣れてきましたが、夫や両親、子ども達とは2年間の避難という約束で広島に来たので、2年後福島に帰っても放射能が本当に大丈夫なのか、今から不安に思ってしまう。
- ・ 同じ避難してきた方々と交流したい気持ちは強いのですが、広島に来てから体調が思わしくない。体の様子をみながらタイミングをうかがって参加したい。
- ・ 避難元で暮らす夫が病気になったら不安。
- ・ 子どもが体の不調を訴える度、生きた心地がしません。定期的に健診を受けさせたい。いずれは医療費無料になるといいです。
- ・ 今後の生活拠点を広島にするのかということを決められずにいますので、仕事を本決めしてもいいものなのか悩みます。
- ・ 徐々に関心が失われて、まだまだ困っている人が居り、問題山積みの中忘れられていくことが不安。
- ・ 私が脱原発に賛同していることで、主人の職場や今後の勤務で支障がないか不安。
- ・ こういう交流会で東京から避難ということで、福島の方のお気持ちを刺激することがないか気がかりで参加をためらってしまう。かといって、黙って何もせずにいたら、今までのように国の都合のいいようにされてしまうし、なんだか最近どうしたらいいのか、大変息苦しく思っている。
- ・ いつになったら夫と家族そろって暮らせるのかわからないので、先々自分の結婚が崩壊するのではないかという不安。
- ・ 主人や義家族と放射線に関しての考えが違う。母子避難に反対。
- ・ このごろ友達ができました。毎日が楽しくなってきましたが、生活が安定したらよいのですが。
- ・ 夫が福島で仕事をしているので、毎月広島へ会いにくる旅費が大変です。二重生活なので交通費も負担になっています。
- ・ 福島にいる夫と月一回でも会うことが難しい。
- ・ 自動車を購入する資金がないこと。光熱費と食費を稼ぐのがやっとの状態。安定した収入を得られる職場で働きたい。
- ・ 収入が半減したので、住宅支援が終わったらやっで行けるか、子どもを幼稚園にやれるか心配。貯金は避難・二重生活で使い果たしたので・・・。
- ・ 子ども達の学校に合わせてもう1年広島にいることを決めましたが、福島の住宅ローンを払いながら、行き来できるかも不安に思います。中学生の子どもに「塾は？」と聞かれますが、行かせられません。
- ・ 食品からの放射能摂取の不安。
- ・ 小学校の給食が心配。
- ・ 広島に食品を自分で持ち込める放射能測定所がない。

Asuchika

- ・ 東電の話聞く限り、自主避難者に対する補償は現段階のもので手打ちをして終わるつもりの様な気がします。被爆地・広島ノウハウを福島にいかし、これまでの闘いを後ろ盾にして活動したいです。
- ・ 広島が過去にそうであったように、福島県民も被曝者手帳（健康手帳）を発行してもらうように働きかけるべきです。
- ・ 広島その他近隣のガレキ受入れ・焼却に対して非常に危惧しています。
- ・ 長期にわたって避難を続けるため実家から公営住宅に移ったが、子ども達は転校を拒み車で送迎している。子どもの送迎は大変負担になっている。
- ・ 病院に行くとき、住所変更をしていないので大変（窓口で説明など）。
- ・ このような会があること心強く安心しました。まだこちらに来て日も浅く、しかも全員無職で生活の不安が大きいです。しかし、安心して息が出来ること、食材探しもとても安易なこと（地元の物を選べば良いので）、やっと緊張が解けてきました。この安心感は何にも変えがたいです。
- ・ 福島に戻ることになりました。交流会に参加してみたかったのですが、残念です。福島に戻ってからの生活に不安がありますが、頑張っていこうと思います。
- ・ 広島県内の避難者、移住者の方と広く繋がり、前向きな活動ができればと願っています。
- ・ 新しく入ってこられる方が孤立しない事を希望します。
- ・ 避難者だけでなく、広島の人と交流する機会も欲しいです。
- ・ 広島に来たものの、お友達が出来ず寂しい毎日です。

さまざまな避難者の声を掲載しました。当会が主体的に取り組む課題ではないものも含まれています。当会はすべての避難者と大きく緩やかに繋がり、避難者の生活のベースを整え、その生活を落ち着かせることを目指しており、何か特定の主張を訴える母体となるものではありません。